

# 教育センター

センター長 福島 統

教授・センター長

	福島 統	医学教育学
教授	尾上 尚志	医学教育学
准教授	中村真理子	医学教育学
講師	岡崎 史子	医学教育学

## 教育・研究概要

平成 11 年 4 月に教学委員長を室長に医学教育研究室が学事部学務課内に設置され、平成 14 年 4 月には初年次教育の拡充のために、国領校に医学教育研究室国領分室が設置された。平成 17 年 10 月に教育センターが設置され、その中に医学教育研究室、看護教育研究室、卒後教育支援室、教育開発室が置かれ、平成 18 年 4 月には教育センター事務室が設置され、教育センターとして本格的な活動が開始された。福島 統が平成 19 年 4 月に教育センター長に就任し、平成 22 年 4 月、平成 25 年 4 月に再任された。教育センターは、平成 22 年 4 月に C 棟 7 階に移動し、シミュレーション教育施設および e-Learning 施設の管理運営も行っている。平成 25 年 9 月 1 日に東京慈恵会医科大学教育センター規定が改定され、教育センター内に医師キャリアサポート部門（部門長：福島 統）、看護キャリアサポート部門（部門長：奈良京子）、シミュレーション教育部門（部門長：尾上尚志）、地域医療支援部門（部門長：松島雅人）、教育 IR 部門（部門長：中村真理子）が設置された。医師キャリアサポート部門には、医学教育研究室（室長：木村直史）と教育開発室（室長：福島 統）がある。

1. 平成 24 年度文部科学省「基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成 (B) グローバルな医学教育認証に対応した診療参加型臨床実習の充実」事業で「参加型臨床実習のための系統的教育の構築」（事業責任者：宇都宮一典教授）を行っている。本取組の中で、英国キングス大学医学部の Year 3 OSCE を尾上教授が、Y 4 OSCE を中村准教授が調査した。

2. 平成 24 年度文部科学省「基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成 (C) 医学・歯学教育認証制度等の実施」事業で「国

際基準に対応した医学教育認証制度の確立」（申請大学：東京医科歯科大学）を連携校として活動している。本取組の中で、中村准教授がアメリカ医科大学協会と ECFMG、及び FAIMER での質保証の活動を調査した。連携校として、本学の医学教育の自己点検評価を行うために、教育センター内に教育 IR 部門を設置し、本学での教育成果のデータ収集と分析を行った。この分析をもとに、自己点検評価書原案を教学委員会に提出した。この活動を通じて教学 IR の在り方についての調査研究を行い、その成果を 2 月の本補助金の公開シンポジウムで中村准教授が発表した。

3. 平成 22 年度厚生労働科学研究費補助金（癌臨床研究事業）「がん患者の QOL につながる在宅医療推進に向けた、総合的がん専門医療職のがん治療認定医、がん専門薬剤師と協働するナース・プラクティショナーに関する研究（研究代表者：森美智子）」は昨年度で終了したが、研究のまとめとして、Nurse Practitioner の在宅患者の QOL に関する研究結果を日本医学教育学会で発表した。

4. 平成 25 年度文部科学省研究拠点形成費等補助金「先進的医療イノベーション人材養成」事業で「卒前から生涯学習に亘る総合診療能力開発」（事業推進責任者：大野岩男教授）が採択された。本取組の概要を示す。「地域と大学が強く連携し、卒前から卒後・生涯に亘る時間軸の中で、『幅広い多様性』という総合診療の専門性を基礎に、地域医療で生じた問題を自ら解決するための臨床研究を発案・遂行し、エビデンスを発信できる医師を養成するプログラムを開発する。本学は既に卒前教育において地域での様々な医療ニーズを体験する実習を低学年から体系的に導入し、さらに社会人教育として地域医療に従事する医師を対象に臨床研究者育成プログラムも実施している。そこで本事業では、卒前、臨床研修での「地域医療体験」の拡充、専門修得コース（レジデント）における教育病院・施設群と連携した『総合診療コース』の新設、大学院博士課程での授業細目『地域医療プライマリケア医学』の確立、大学院と専門修得コース（レジデント）のコンバインドプログラムを構築し、プライマリケア現場で活躍する

clinician researcher を育成する全学的なシステムを開発・整備し、地域医療のための人材養成拠点となる。」本年度の取組に関しては、英国キングス大学医学部の Janice Rymer 教授、British Journal of General Practice の編集委員長の Roger Jones 教授、世界医学教育連盟会長の Stefan Lindgren 教授に外部評価を受けた。

5. 看護キャリアサポートセンターは、奈良京子部門長を担当として、①エデュケーションナース研修、②看護監督者研修、③看護管理者研修などの看護学教育プログラムを実施した。

6. 平成 25 年度私立大学教育研究活性化設備整備事業に「キャンパス間カンファレンスシステムの構築」（取組責任者：福島 統）、平成 25 年度私立学校施設整備費補助金（私立学校教育研究装置等施設整備費）事業に「シミュレーション教育装置の整備」（取組責任者：福島 統）を申請し、採択され、学習環境の整備を行った。

7. チーム医療構築ワークショップ：青戸病院医療事故の改善策の一つとして始まった医療の安全教育ワークショップは平成 16 年 1 月から 5 年間、55 回開催、5 千人参加で終了し、平成 21 年 4 月からはチーム医療構築ワークショップとして形を変え継続している。今年度も附属病院 3 回、葛飾医療センター 1 回、第三病院 2 回、柏病院 2 回の計 8 回実施した。

8. 地域医療者のための心音セミナー：本学学生が学外実習を行っている実習施設の看護師を対象に、心音セミナー 2 回、呼吸音セミナー 2 回を開催し、地域医療者への生涯学習コースを提供した。

9. 学外での医学教育関係講演：①東邦大学医学部、②昭和大学、③IMS 医療安全管理者講習会、④埼玉医科大学、⑤金沢大学医学部、⑥兵庫医科大学病院、⑦聖マリアンナ医科大学、⑧奈良県立医科大学、⑨厚生労働大臣指定理学療法士・作業療法士・言語療法士養成施設等教員講習会、⑩厚生労働大臣指定柔道整復師養成施設等専科教員講習会、⑪東京医科歯科大学、⑫東北文化学園大学、⑬長崎県看護学校協議会、⑭都立南多摩看護専門学校、⑮兵庫医科大学、⑯横浜市立大学医学部、⑰東邦大学大学院医学研究科博士課程、⑱大東文化大学法科大学院

### 〔点検・評価〕

教育センターでは、①医学教育・臨床研修支援、②看護キャリアサポートセンター業務、③シミュレーション教育施設運営管理、④e-Learning の設備管理と運営、⑤教育 IR 活動そして⑤競争的教育補助金の獲得を中心に活動を行っている。研究もこ

の活動に沿った内容で行っている。シミュレーション教育施設はその使用頻度が年々増加し、さらに使用機材は高機能になってきている。教育センターの役割を明確化するために、平成 25 年 9 月に教育センター規定を改定したが、今後ともセンターの役割の多様化に対応する必要がある。

## 研究業績

### II. 総説

- 1) 柴原真知子<sup>1)</sup>、錦織 宏<sup>1)</sup>、中村真理子、鈴木俊哉(新潟大)、武田裕子(King's College London)、小西靖彦<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>京都大)、福島 統、奈良信雄(東京医科歯科大)。【医学教育の国際認証について】英国卒前医学教育改革の動向 General Medical Council における教育質保証の取り組み。医教育 2013; 44(2) : 63-70.

### III. 学会発表

- 1) 福島 統。(教育講演 V) 理学療法士教育の現状と近未来への提言－これからの医療者教育：患者安全を目指す教育－。第 32 回関東甲信越ブロック理学療法士学会。千葉、11 月。
- 2) 福島 統。(日本解剖学会シンポジウム S14：肉眼解剖学教育の現況：何をどう教授しているか) 卒業時アウトカムにおける肉眼解剖学実習の意義。第 119 回日本解剖学会総会。下野、3 月。
- 3) 磯崎富美子、畑尾正彦、森美智子、石田也寸志、島内 節、福島 統、奥山朝子。Nurse Practitioner (NP) の役割機能と在宅患者の QOL に関する研究－医師の視点の調査－。第 45 回日本医学教育学会大会。千葉、7 月。
- 4) 福島 統。(シンポジウムⅢ：卒前・卒後教育のアウトカムとしての「プロフェッショナルリズム」) 英国での Fitness to Practise (FtP) の活動。第 45 回日本医学教育学会大会。千葉、7 月。
- 5) 福島 統。(講演) 戦後の医学教育史－歴史から見える今の問題。第 39 回日本外来小児科学会教育検討会。東京、2 月。

### IV. 著書

- 1) 福島 統。第 6 章：他分野の専門教育からの示唆。日本弁護士連合会法科大学院センターローヤリング研究会編。法科大学院におけるローヤリング教育の理論と実践。東京：民事法研究会、2013。p.354-79.

### V. その他

- 1) 福島 統。書評：患者の声を聞く－みんなて紡ぐ医療の絆。医教育 2013; 44(2) : 106.